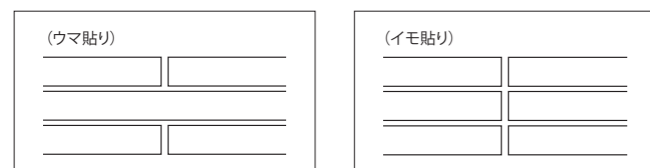


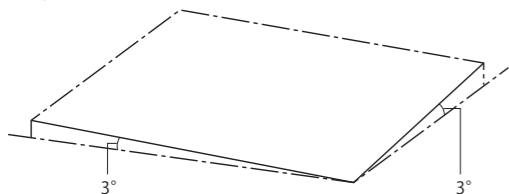
アド・リサイクル・ウッドデッキの施工方法とメンテナンス

施工について

- 目地ラインが目立たなくなるウマ貼りを標準としてください。イモ貼りの場合、目地通りの不規則性が施工後に気になる場合があります。



- 下図の通り、水勾配をとってください。水はけが悪いと材料が腐る原因になります。

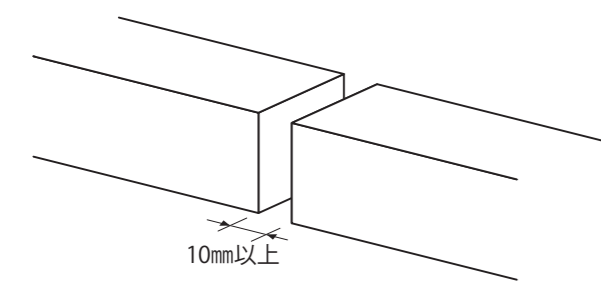


[納品から施工までの保管方法]

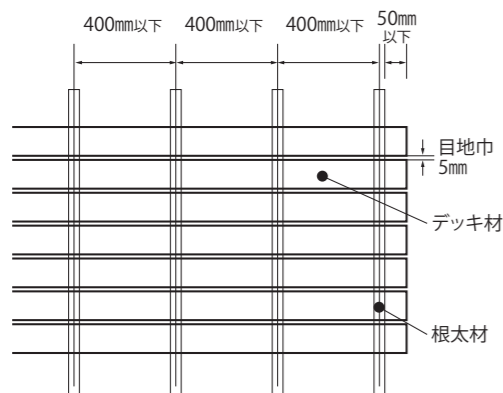
- 壁面に立てかけての保管は反りや曲がりの原因になりますので絶対に避けてください。
- 水に濡れないように保管してください。

[下地根太]

- 専用根太を使用してください。
- 木粉・プラスチック成分が含まれている為、吸水や温度・湿度変化による伸び縮みが発生します。根太が伸びて浮き上がらないように、デッキ材と根太はしっかりと固定してください。
- 根太材同士の接合部は10mm以上の隙間をあけてください。



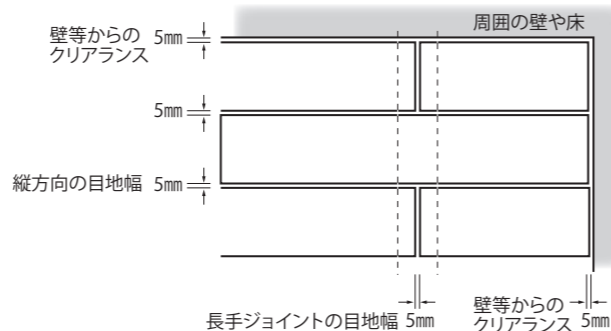
- 根太間隔は中空タイプ、無垢タイプともに芯芯400mm以下としてください。



- デッキ材の片もち距離は、根太端から50mm以下としてください。

[デッキ材の間隔]

- デッキ材の幅方向の目地幅、長手方向ジョイントの目地幅及び周囲の壁や床端部からのクリアランスは5mm以上を確保してください。
- デッキ材にはプラスチック成分が含まれているため、温度差で伸び縮みが発生します。冬場施工時には、十分に目地を設定してください。夏場の温度湿度上昇、吸水によって伸びが発生し、デッキ材が突き付けになって破損が発生する場合がありますのでご注意ください。



[束、大引]

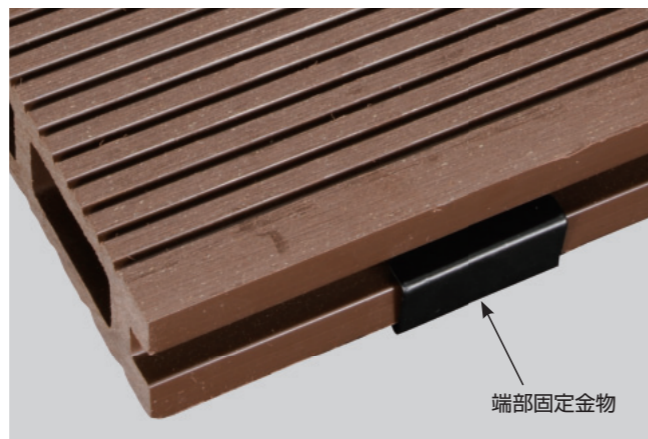
- 高さ、下地状況により、適切な材料を選定してください。
- 大引を使用しない場合は、束を必ず床（地面）に固定してください。しっかり固定しないとデッキ材の反りにより、下地ごと持ち上がる場合があります。
- 設置面に固定ができない場合、大引又は根太つなぎを設置して、床面の変形を抑える構造としてください。
- 束を固定しない場合、強風でデッキが床組みごと飛散する可能性があります。固定しない場合は、別途飛散防止対策をお勧めします。

[デッキ材のカット]

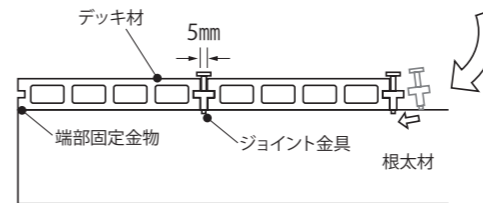
- デッキ材カット用のノコギリ刃は、プラスチック（塩ビパイプ）カット用の刃を推奨します。デッキ材には、プラスチック成分が含まれているためです。
- カットの際、デッキ材の小口にバリが付いた場合は、紙やすり（#60程度）で削り落としてください。

[デッキ材の固定]

- 必ずジョイント金具工法で施工してください。使用する金具は必ず専用のものを使用してください。
 - 下記の要領で施工してください。
- ① 端部固定金物を根太に専用ビスで固定する。



- ② 1列目のデッキ材をはめ込む。



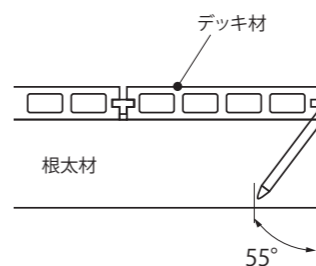
- ③ ジョイント金物を根太の位置で、1列目と2列目のデッキ材ではさみ込む。ジョイント金物の固定箇所、根太にあらかじめφ3.2mmのビス穴をあける。

- ④ 2列目以降も同様に作業をすすめる。

- ⑤ 8列目でジョイント金物を全て専用ビスで固定する。

- ⑥ 9列目以降も同様に作業をすすめる。9の倍数の列毎に専用ビスで固定していく。

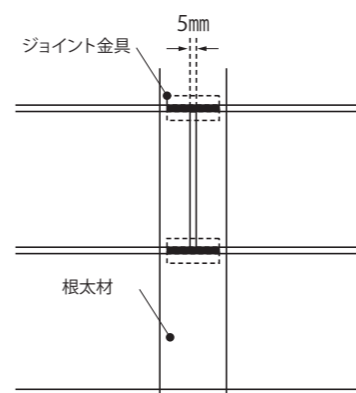
- ⑦ 最終列はビスを根太の位置で55°の角度で固定する。



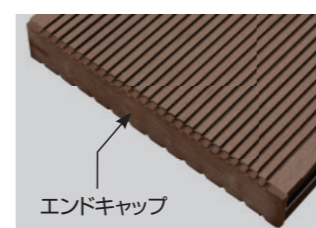
端部調整が必要な場合



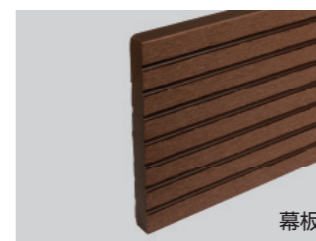
デッキ材 長手ジョイント部の固定



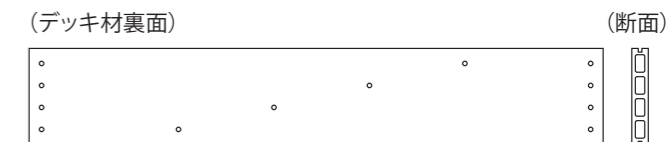
- ⑧ 中空構造タイプの端部小口には、専用のエンドキャップを取りつける。



- ⑨ 幕板は必要に応じて取りつける。専用ビスで300mmピッチで固定する。



- ⑩ 中空構造タイプの場合、水勾配で一番低い箇所施工されるデッキ材の裏面には、雨水を抜くために必ず下記の通り穴をあける。穴はφ5mmとする。

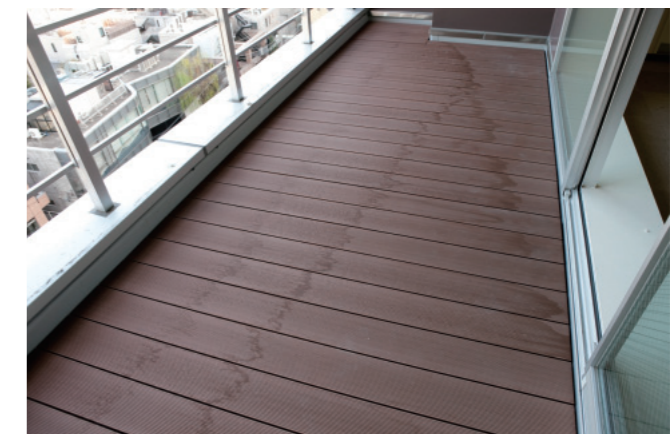


[使用上の注意]

- 素足歩行も可能ですが、夏場は直射日光により表面温度が急激に高くなり、火傷する可能性がありますので十分ご注意ください。
- 製品に強い衝撃を与えないでください。破損する場合があります。
- 製品の上で焚き火や花火等をしないでください。火災の恐れがあり、たいへん危険です。
- 表面に揮発性の有機溶剤（ガソリンや灯油等）をこぼさないようにしてください。変色や変形の原因となります。こぼした場合はすぐに拭き取ってください。
- 原材料にプラスチックが配合されているため、摩擦により特に冬場に微弱な静電気が発生することがあります。
- 紫外線による退色は天然木ほどの変化はありませんが、経年変化による多少の退色が見られる場合があります。

[日常のお手入れ方法]

- 日常の清掃はホウキ掛けで行ってください。定期的な清掃をお勧めします。
- 汚れが目立つ場所は、水で希釈した中性洗剤を使用し、デッキブラシ掛けを行ってください。洗剤が残らないように十分な水で洗い流して乾燥させてください。
- 汚れ落としにシンナー、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。変色等の原因になります。
- タバコの焦げ跡等や小さな擦り傷跡等はサンドペーパーまたは金ブラシ掛けしてください。サンディング跡は残りますが、焦げ跡等は目立たなくなります。
- 付着したチューイングガム等はヘラ等を使用して除去してください。
- 排水ドレイン等は定期的に清掃してください。清掃を怠ると床下が長期的に湿潤状態となり、デッキ材に大きな反り、ねじれ、伸びを生じさせる場合があります。
- デッキ材の目透かし目地部分に詰まったゴミ、砂、木の葉等は床下の通気を妨げるため、定期的に除去してください。



! 原料の65%は木粉です。バルコニー等に使用すると雨染みが残ります。染みが気になる方は、新商品リサイクルウッドデッキプラスをおすすめいたします。